

平成 29 年度 研究成果報告書  
Research Achievement Report FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅢ講座・准教授
氏名 Name	西岡 美樹
専門分野 Academic Field	言語学・ヒンディー語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ウェブコーパスを利用したヒンディー語・日本語の複合動詞の対照研究
<p>2017年度は、前年度に引き続き「ウェブコーパスを利用したヒンディー語・日本語の複合動詞の対照研究」（科研費〔課題番号：15K02517〕）の課題を中心に研究を進めた。</p> <p>まず4月に、2016年度に開発したヒンディー語のウェブコーパスが抱える問題（アノテーションの吟味、コーパスのデータやウェブサイトに関する修正等）について技術者ならびにヒンディー語母語話者である研究協力者たちとメール等で打ち合わせを行い、コーパスのデータ修正点の調査した。また、ウェブコーパスの現地（ヒンディー語母語話者間）でのさらなる普及を目指し、研究協力者たちとウェブサイトのヒンディー語版を作成することにした。これは2018年2月上旬に一般公開した。</p> <p>このコーパス開発と平行して、本科研課題である複合動詞について、これまでに扱った <i>jānā</i> 「行く」 から得られた新たな知見を元に、<i>denā</i> 「与える」（補助動詞「やる／あげる」相当）を取り上げ、5月に “Does <i>denā</i> GIVE as a V2 render benefactive meaning in Hindi?: A corpus-based comparative analysis in Hindi and Japanese” と題して、Adam Mickiewicz University（ポーランド）で開催された国際会議（33rd South Asian Languages Analysis Roundtable）で発表した。さらにこのシリーズものとして、7月には、ヒンディー語の姉妹語とされるシンハラ語における「与える」動詞の振る舞いと比較した “Does <i>denā</i> GIVE as a V2 render benefactive meaning in Hindi?: A comparative case study of Hindi, Japanese and Sinhalese” を、京都女子大学で開催された言語学会第19回国際年次大会で発表した。その後、コーパスから <i>lenā</i> 「取る」と <i>rakhnā</i> 「置く」のデータを収集し、目下 <i>lenā</i> 「取る」に焦点を当て吟味を続けている。</p> <p>上記科研プロジェクトを進める傍ら、2013年度に終了した「ヒンディー語と日本語の属格後置詞および格助詞・準体助詞の対照研究」（科研費〔課題番号：23652084〕）の研究も進めた。6-7月には大阪大学平成27-29年度国際共同研究促進プログラムの‘Nominalization’プロジェクトに参加し、最先端の理論的枠組みについてさらなる知見を得た。一方で、7、10月並びに年明け2月に開催された国立国語研究所のプロジェクトの「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」の研究会に参加し、多岐にわたる言語研究の知見を広めた。特に富山大学で開催された名詞修飾表現班の10月の研究会では、「ヒンディー語における名詞句と「形容詞」の再考 ―インド伝統文法と体言化理論融合の試み―」と題して発表し、同プロジェクト共同研究員の方々から有意義なフィードバックをいただいた。</p> <p>また、年度初めに2016年度の東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催の言語研修用に作成したヒンディー語のテキストの修正校正を行い、それらを6月下旬にオンライン出版した。</p>	